

# 苦闘一年の回顧

日本労働同盟  
九州聯合會長

伊藤卯四郎

資本主義経済機構の矛盾は不合理とは資本主義日本の社会を根本的に腐蝕してしまつた。深刻なる不景氣は日本資本主義社会の表面へ凝注、固着して資本主義日本の経済的破局は独り労働階級の力ならず、勤労農漁民、中小自作地主階級、中小商工業者階級と生活窮乏のドン底へ陥れ、国民生活は根本的の破壊され、社会不安は刻々に増大され、非常時日本への叫声は唯しく全国の巷々を覆つた。既に街頭、百萬を越す失業群を擁して労働階級の生活苦難は停止する事と知らぬ資金低下と労働強化に依つて愈々急角度へ激化され、此の絶望的労働階級の生活苦難の不安と憔悴に打ち込み、此も卑怯者！敗北主義者の一群は凡、一八世紀に所謂滿洲問題を中心にして全国に膨脹して捲き起つた軍國的、愛國的、國民の熱狂に煽られて「國家」「國民」の名を冠して流行的看板を掲げ、社会主義を詐称し、笑止に止し、他力不頼の暴力行使に依り政權奪取を夢みて労働階級を永遠の飢餓と窮乏の牢獄に閉じこめて資本主義を賣ろうとする資本主義の傀儡、資本家の先きを勤めろフアフレヨの腐敗運動へ轉落して行つた。

「非常時日本」に於ける労働階級の深刻なる生活苦工健全に打倒する事、断じてこの如きフアフレヨの腐蝕運動を止む事、提言を聯合的口頭として、翼主義運動を以て、翼を以て吾の怒同盟の陣營より口頭を以て小見識者と清算し、茲に腐蝕フアフレヨを再清算して、日本労働俱樂部加盟の諸友誼団体と相語り、健全なる労働組合主義の大旗を掲げねばならぬ諸労働団体を誘つて組織労働者三十萬を擁する日本労働組合會議を結成し、日本資本主義打倒、社会主義日本建設の主体勢力を築き上げ、此の労働階級の決定的勝利への一大前進であり、全国の労働階級の若くは狂乱、激躍するところである。

労働組合の階級的責務は愈々重大である。非常時日本に於ける労働階級の絶望的生活不安と半餓化的百萬の失業群を控えて、没落資本主義社会の諸支配階級の死物狂への暴圧と逆襲に抗して、日本労働同盟の現実主義を經とし、日本労働組合會議の健全なる労働組合主義を緯とし、労働組合本来の立場に於て、非常時日本の難局を打破して、労働階級の徹底的解放を我々現代的に建設闘争へ一切の犠牲と努力を集中す可き軌道上に當面してゐる。